



オムソーリ

Vol.4

医療法人社団洋精会 広報誌
社会福祉法人宝生会

2013年5月23日発行

URL : <http://numaog.or.jp/>

◇医社)沼尾病院

◇ぬまお内科

◇よしのいえ

◇社福)敬祥苑

◇白楽園

◇カトレア



正面入口 ～四季折々の花々が心を和ませます～



病院全景



正面玄関

沼尾病院 七十五周年にあたり

医療法人社団洋精会
社会福祉法人宝生会



理事長
沼尾 成美

洋精会の創立者である、義父沼尾義精初代理事長は、昭和13年、旧日光街道沿の現在地に沼尾病院を開設されてから、今年で満75年になります。

無床の診療所からスタートし、徐々にその規模を拡大しながら、現在療養病床100床の入院施設を備えた、複合型病院として、現在に至っています。

歴史を辿ると、昭和26年に改組した医療法人社団洋精会は、肛門外科病院として「痔の沼尾さん」で親しまれ発展し、さらに昭和43年には、特定医療法人の認可を受け、より公益性の高い医療法人として、経営基盤の安定と、永续性を目的とした法人の役割を担ってきました。

病院の大改築とともに、昭和56年に内科医である夫沼尾嘉時は、二代目理事長職を継承し、平成18年死去するまでの27年間、地域医療・福祉の中核を担いました。

救急医療にも積極的に取り組みながら、高齢者医療と福祉に、法人運営の主眼点を置き、先駆的に当グループの事業を展開してきたように思います。

超高齢社会の到来する21世紀を見据えて、昭和61年に社会福祉法人宝生会を創設、特別養護老人ホーム敬祥苑、老人保健施設白楽園、グループホームカトレアを併設する傍ら、在宅部門の充実にも注力し、各種在宅サービスが受けられるという、安心の選択肢が備わってきました。

施設も在宅も、車の両輪として互いに機能してこそ、医療と介護の一体的提供が、ご利用者の安心に繋がるものと確信しております。

私は洋精会、宝生会の理事長職を引き継いで、早くも7年目に入ります。

沼尾病院創立75周年を無事迎えられるのも、地域の皆様はじめ関係機関の方々温かいご支援、ご指導、ご協力のお蔭と深く感謝申し上げます。

今後も先代の遺志を継承しながら、信頼される法人としての役割と使命を果せるように、多職種協働で切磋琢磨して参ります。

地域の高齢者の方々が、より安心できる、より尊厳ある老後を送っていただける一助になれば、沼尾グループとして、これほど嬉しいことはありません。

医療法人社団洋精会 沼尾病院

インフルエンザウイルスの パンデミックについて



沼尾病院 院長
古谷 耕資郎

中国でトリインフルエンザが流行しています。インフルエンザは、わが国では乾燥した冬に流行していますが、新型インフルエンザ（2009年4月）の時もそうでしたが、新しい型のインフルエンザは必ずしも冬の乾燥した時に流行しません。そして今回の流行で心配されるのが、パンデミック（大流行）です。

1918年から1919年にかけて人類が史上初めて経験したパンデミックである「スペインかぜ」では、まず、1918年3月に米国で新型インフルエンザウイルスの流行がありました。その後、アメリカのヨーロッパ派兵で大流行し、1年後までに世界的な大流行がおりました。当時、人類はなすすべなく、自然の終息を待つしかありませんでした。

最近では、2009年4月にメキシコで新型インフルエンザが流行してパンデミックになったことが記憶に新しいところです。この時、ワクチンがあり、抗インフルエンザ薬があり、準備万端でした。しかし、誰が考えたのか、国内にウイルスを持ち込ませないという「水際作戦」

のために、目のつきた数人の患者さんに目を奪われて大局を見失い、結局国内での流行に対して後手に回ってしまいました。歴史にならって、同じ過ちは繰り返さないようにしなければなりません。

ウイルスや細菌などの病原体が感染すると、発熱や症状を伴って発症する人、潜伏期にあつて発症前状態にある人（無症候性キャリアーの状態）、体内で病原体が増殖して他人にうつす危険があるのに最後まで何の症状もない人（無症候性キャリアー）、病原体が臓器で増殖していきなり激しい免疫反応だけで脳症を発症して死亡する人など、さまざまです。発症した人だけに対応しても流行は防ぐことはできず、一人発症していれば、必ずキャリアーがいて、やがて大流行する、という前提で対策をたてる必要があります。

中国でのトリインフルエンザの流行を受けて、2013年4月16日、政府は新型インフルエンザ対策特別措置法に基づいて住民を4つのグループに分けてワクチン接種の優先順位を決める案をまとめました。私見ですが、国民全員がワクチンを受けられるような体制をつくるべきで、予算が限られているからといって最初からワクチン接種をする住民を分別することは、感染対策としては誤りです。予算を増やしても全員接種しなければ意味がありません。過去のパンデミックにならえば、医療従事者に優先接種することがまず一番で、医療

体制を万全にしつつ、国民全員にワクチンを接種する必要があります。そして、大流行を前提としての抗インフルエンザ薬、医療の確保が必要です。日頃、診療報酬を0・004%上げる程度で医療費の削減を狙ったり、ジェネリック薬のシェアを拡大するなど、医療費、医療供給を制限する政策を進めながら、パンデミックの恐れが出た時だけ、抑制策で疲弊しきっている医療機関にあれば、これや押し付けることは無理です。日頃から医療機関を育て、医療機関どうしのスムーズな連携ができていなければ、パンデミックが生じた時に医療体制は動かず、場当たりの対応しかできません。

トリインフルエンザ対策は、現在は案ですが、いざれ策定されて、いざという時には国民全員が一斉にワクチン接種を受けられ、患者さんが大量に発生してもスムーズに緊急でも十分な治療が受けられる体制がつくれるものと期待しています。

訪問看護ステーション 星が丘の管理者として



訪問看護
ステーション
星が丘所長
武田 安子

この度4月より、訪問看護ステーションに配属されました。今回の人事異動の話をしていただいた頃、前職の地域包括支援センターきよすみでALSの方の退院に向けての支援に関わっていました。

人工呼吸器が装着されているケースであり、在宅での療養を支援するためには多くの職種の方たちと協働していました。その際、中心的に支援していたのが訪問看護師でした。その関わりの場面として、優しい言葉掛けをしながらも今後予測される病状を含め厳しい助言など適切な指導をされている場面に遭遇し、私の中で訪問看護師への関心と興味が高まり「やってみたい」という意欲が変わったように思います。以前私も小規模の事業所で訪問看護を経験したことから「訪問看護の現場に戻りたい」という思いが更に強くなりかけていました。しかし、もちろん計り知れない不安がありました。医療現場から離れていた私にとっては知識や経験も薄れている事、また管理者としての役割が果たせるかと迷いました。再度勉強する機会をいただいたと思ひ引き受けることになりました。

訪問看護ステーション星が丘は、沼尾病院の訪問診療を中心に、地域の訪問診療を行なう先生方との連携体制が整っているのを強く感じます。現在、地域で求められている問題として、入院の短縮化や医療依存度の高い人や在宅での看取りが上げられます。その体制はこれらの問題を直視し解決する為に日々取り組む上で非常にプラスになっていると感じます。

今後は今まで築き上げた訪問看護ステーション星が丘の信頼と実績を維持向上できるようにスタッフの方たちを中心に皆様のご指導を受けながら努力していきたいと思ひますので今後とも宜しくお願ひ致します。

通所リハビリテーション



副主任
久保 恵子

通所リハビリテーションは、平成十五年十一月に開設しました。おかげさまで、今年で十年目を迎える事になりました。私は、平成十六年二月に入職し、この節目の年に介護職の副主任として、新たにスタートすることになり、責任の重さを感じています。

介護職として、ご利用者様、ご家族様の状況を把握し、送迎、体調の状態の確認をし、施設ご利用時には、リハビリの補助、歩行介助、頭の体操、嚥下体操、グループ体操、集団体操、食事介助、入浴介助、レクリエーション、排泄介助と日々、お手伝いをさせていただいております。

ご利用者様は、『お客様』です。

ご利用者様、ご家族様の立場を考え、一人一人の思いや痛みを汲み取ることが大切です。お迎えする心の準備と良い環境（場所）を提供させていただいています。技術や知識も重要ですが、安全に、安心に、心地良く過ごしていただけるように、声掛け、傾聴し、『沼尾病院の通所リハビリテーションを利用して良かった、楽しかった』と思っていただけるよう、接遇には十分注意をし、配慮していきたいと思っています。

相談員が問い合わせから、契約、そしてご利用するまでの準備には、並々ならぬ労力と時間が費やされています。卒業を含め、継続していただけるか、職員の連携になります。

ご利用時には、リハビリスタッフが残存機能回復と維持のため専門の知識と技術で個別リハビリを実施しています。体調の管理及び体調不良のご利用者様につきましても、看護師が必要に応じて迅速に、対応しています。

地域の皆様に愛される通所リハビリテーションを目指し、笑顔とサービスの向上、ご利用者様、ご家族様のご要望に沿えられるように、リハビリスタッフ（理学療法士、作業療法士、言語聴覚士）、相談員、看護師、送迎車運転手、介護職一丸となって努力してまいりますので、今後とも宜しくお願い致します。

地域包括支援センター

きよすみ



副主任
伴 広勝

平成二十五年四月より地域包括支援センターきよすみの副主任を仰せつかりました伴と申します。平成十五年より居宅介護支援事業所、在宅介護支援センターきよすみで介護支援専門員として勤務いたしまして、平成十八年四月より地域包括支援センターの主任介護支援専門員として勤務しております。

こちらに異動してから七年が経過しました。当時と比べると地域包括支援センターは、徐々にではありますが、地域に認知されてきたように感じます。昭和まつり、戸祭フェスタへの参加、民生委員さんや地域にお住まいの方々対象のセミナーの講師の依頼を承るなど、地域包括支援センターきよすみは、地域に必要とされる機関に近づいてきているように実感する機会が増えてまいりました。

また、開設当初予防プランの給付管理数は三件で始まったものが、現在では百六十件を超える数となり、毎月の新規の相談件数も二十件を越えております。

地域包括支援センターの業務内容は、線引きが難しい部分もあり、どこまでが業務として関われるのか、どこまで支援して良いものか毎日試行錯誤しながら対応しているような状況であります。毎日様々な相談が持ち込まれる中、三職種の職員で意見交換を行いながら、連携を図りつつ、ひとつひとつの事例に、真摯に取り組んでいきたいと思っています。

事例によっては精神的な疲労やストレスを抱えることがあります。他の包括職員さん、介護サービス事業所の職員さんから、きよすみは雰囲気や和やかだとお褒めの言葉をいただくことがあります。そのような声を裏切ることなく、地域の方はもちろん、きよすみの職員、他事業所の方々にとっても相談しやすい環境が提供できることを目標としております。前任者の作った、明るく相談しやすい雰囲気を受け継ぎ、日々の業務に取り組んで参りたいと思います。

新任のご挨拶



放射線科
診療放射線技師
赤羽 俊也

みなさまはじめまして、診療放射線技師の赤羽俊也と申します。

前任者の退職を機に、平成25年3月21日より医療法人社団洋精会沼尾病院へ入職し、レントゲン撮影・CT検査に従事しております。

縁あって沼尾病院に入職が叶いました。私が当病院を志望した理由は洋精会・宝生会の基本理念を拝見したことがきっかけです。その時に『オムソーリ人間愛』という言葉を知りました。人間愛の精神のもとチーム医療に励みたいと思っています。

経歴は、県内・市内の病院・医院や画像センターで放射線技師としてレントゲン撮影をはじめ様々な画像検査を担当してきました。沼尾病院でも地域住民の皆様の健康と生活を守る役目を放射線技師として微力ながら努めてまいりますので前任者同様ご支援をいただきますようお願いいたします。

先の東日本大震災にともなう福島第一原発での事故が発生して以来、我々の生活環境に放射線（放射能）が大きく関わるようになりました。目に見えない放射線から受ける被害に対して、漠然とした不安や苛立ち、恐怖心が皆様の心理状態に悪い影響を及ぼしている事と思います。事実として放射線検査では被曝をします。そのうえで患者様のご理解やご協力をいただき行う検査です。確かに放射線は人体に影響をあたえるものです。しかし、放射線を扱う人間が正しい知識と技術のもとで使用すれば、必要以上に害を及ぼす事はありません。患者様に安心・納得して検査を受けていただくために、丁寧な説明を心がけ、常に知識と技術の習得に励み、努力してまいります。検査で不明な事や、検査に不安がありましたら気軽に声をかけください。患者様・御家族様とのコミュニケーションを大切にしたい。検査する事が、みなさまに信頼していただける第1歩と考えております。明るく安心できる放射線室をめざし頑張りますので宜しくお願いいたします。

はくらく



第20号

 社会福祉法人 宝生会
 老人保健施設 白楽園

健康寿命

 老人保健施設白楽園施設長
 並木 賢司

健康寿命とは、2000年にWHO（世界保健機関）が提唱した指標です。「心身ともに自立し、健康的に生活できる期間」と定義されます。具体的には、寝たきりでないこと、認知症がないこと、の2つの条件が満足された状態です。日本では、2010年（平成22年）時点で、男性70・42年、女性73・62年でした。同年における平均寿命は、男性79・64歳、女性86・39歳ですので、その差（男性9・13年、女性12・68年）が日常生活に制限のある「不健康な期間」となります。

平均寿命が延びること、健康寿命が延びることに関しては、一般的には良いことと考えられます。しかしながら、不健康な期間が延びることに関しては、議論の余地があると思われます。「ピンピン、コロリ」を望む老人が多くいます。ある年齢までは元気に暮らし、寝たきりになる前に突然死することを意味します。老衰の経過中に、経鼻経管栄養あるいは胃瘻造設を行うことにより、寿命は延長されますが、健康寿命は延長しません。今年初めに麻生副総理が、終末期の患者を「チューブの人間」と表現し、「私はそういう必要はない」「さつさと死ねるようにしてもらわないと解決しない」と発言し、物議をかもしました。寝たきりの程度及び認知症の程度を反映する指標が、介護度となります。

介護度により、入所先の施設がたいは決まります。具体的には、軽度の認知症があるが、歩行が可能な方はグループホームに、要介護2～4の方が老人保健施設に、要介護4、5の方が特別養護老人ホームあるいは介護療養型医療施設に入所、入院する場合があります。白楽園の新入職員のオリエンテーションで、「老人保健施設の医療について」を毎年話しています。その中で、健康寿命を取り上げています。話の最後に、「20歳前後の皆さんは、老後に関してほとんど興味はないでしょうが、定年後にやりたいと思っても、健康寿命が尽きてしまえば、できません。やりたいことは、多少無理してもできる内にやった方がいいですよ。」とアドバイスしています。

よろしくおねがいします

看護・介護部長 片山 美代

この度、白楽園で看護・介護部長として働くことになりました片山です。働くきっかけとなりましたのは、超高齢化を迎える時代に、白楽園の基本理念である「オムソーリ」人間愛の精神に心引かれ、地域住民のため地域に根ざした介護、地域におけるオンリーワンの施設を目指すという理念の基、皆様と共に目標達成に向け協力し合える職場環境に大変心を打たれました。

私は、39年間、済生会病院で看護師として脳外科病棟、心臓外科、整形外科、内科、婦人科、小児科、外科、手術室

と経験することができました。そのなかでも多くのことを患者様から学び、人としても成長させていただきました。今回、老人保健施設白楽園で勤務することになり、改めて老年看護について考える機会を得ることができました。老人保健施設で働く看護師に求められる使命はと考えますと、近年、高齢者の外来受療率が60才から顕著に上昇し、75歳から79歳を頂点に以降は低下しています。これに対し入院受療率は70歳から90歳以上まで急激に上昇を続ける現状です。そこで、施設で働く看護師は、入所される御利用者様の健康管理、異常の早期発見、早期対応が不可欠となります。また、高齢者は長きに渡る生活史のなかで培われた多様な価値観や信念に加え、進行速度の異なる加齢変化、慢性病や障害を併せもつ為、生活や健康に対するニーズの個性も高い。そこで、個々の多様なニーズにこたえる為にも、支援する側も多様な仕組みやサービス、職種間の連携が重要となります。これからの御利用者様はもとより家族を含め、安全で、安心した生活がおくれるようきめ細かなサービスの提供を心がけたいと思います。今後とも皆様のご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

安全、安心を

支援相談員 上澤 和夫

平成4年4月開設以来21年目になりますが、今までを振り返り見ると、長いようで短い期間が過ぎていき、開設当初の慌ただしさが思い出されます。開設後の3日間で暫らくお待ちいただいた30名の方々の、受け入れさせていただきたいと、職員も無我夢中でした。半年前頃より、個別の面接業務は行っておりまして、3ヶ月～4ヶ月かけて、ベッドが満床になった記憶が思い出され

ます。利用者様に負担を掛けず、ご利用してもらう為、相談後の本人面接は、県内はすべて出かけるようにして対応していただきました「前理事長の、沼尾病院での訪問診療「往診」を積極的に取り入れて、診るのではなく、診させてもらう事に重きを置いての事。現在も継続して対応しています。御利用者、御家族様に対し、安心して、安全に当園をご利用して頂く為、理事長が常に話されている、目配り、気配り、心配りを念頭に置き、常日頃対応に心がけるように努力しております。近年特別養護老人ホーム、有料老人ホーム、グループホーム等での火災が起き、多数の死傷者が出たことは、ご承知の通りです。当園としては、優良防火施設で表彰を受け、施設内消防訓練、設備点検、自動体外式除細動器による救急蘇生訓練「救命講習修了者多数」も、年2回実施し職員の士気を高め、利用者様に、安全・安全に園内療養生活をしてもらうように心がけております。全職員同で快くお迎えし、過ごして頂けるように、今後も一生懸命取り組んでまいりたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。

全国介護老人保健施設大会に参加して

理学療法士副主任 田中 裕輔

昨年10月に、沖縄県で開催された第23回全国介護老人保健施設大会に参加させていただきました。全国介護老人保健施設大会で何が行われるかといいますが、介護面、医療面、倫理面などについての講演や全国の介護老人保健施設（以下老健）からさまざまな職種が集まり、施設での取り組みや現状についての報告が行われます。今

回の老健大会では、私自身も『もつと、もつと歩こう！』通所利用者の活動量向上を目指して』という題で、白楽園での活動量向上に向けての取り組みをご報告させていただきました。

老健大会のテーマが、『命どう宝（命こそ宝物）』老健が担う地域包括ケア』であり、老健の職員として、深く考えさせられる講演や報告が数多くみられました。そして、多くの講演や報告を聞き、改めて中間施設である老健の重要性を感じることができました。特に、ある講演のなかで、介護保険のリハビリへの希望が、起きる、立つなどの基本動作練習、トイレ、食事などの日常生活動作練習だけではなく、調理、買い物などの応用動作の練習、趣味、余暇活動のための練習などの希望も増えていると言われていました。このことから、介護保険のリハビリニーズが多様化し、今まで以上に老健でのリハビリが重要になっているように感じました。実際に、ここ数年で白楽園の通所リハを利用する利用者の年齢が若くなつてきています。それにより、単純に身の回りのことをできるようにするリハビリだけではなく、充実した生活を送るためのリハビリが必要ではないかと感じており、それにどのように答えていくかが、老健の課題になるのではないかと思います。

今回、老健大会に参加し、多くのことを得ることができたと思います。皆様が充実した生活を送れるように、老健大会で得たものを生かして、取り組んでいきたいと思っておりますので、今後よろしくお願い致します。

働くママにとって

看護職 糸川 美穂

私が白楽園に入社して、早いもので

今年で8年目になります。入社当初は、初めての業務に戸惑っていた記憶がありますが、今では、それに対する理解や流れ、利用者様との関わり方等、習熟してきたのかなと感じています。

さて、入社して8年目とはいいますが、実際のところ現場に勤務しているのは4年程度なもので、まだまだ勉強不足であり、未熟なところですよ。というのも、私は入社して2年目に結婚・出産を経験し、現在に至っては3人の子供のママとなりました。家庭があり、仕事があり、それを両立していくのはとても大変なことだと実感しています。その中で、白楽園の「働くママ」に対する制度に、私はとても助けられています。

例えば、1年間の産休・育休があり、ゆとりをもって育児に専念できるという事、またその後復帰するにあたってのバックアップが大きいという事です。私はそれによって通常よりも短い勤務時間で働く事が出来ています。この「時短」は自分自身にももちろん、家庭にも負担が少なくなるので、より仕事に取り組むことができます。その他にも、子供の体調による突発的な早退や欠勤などに対応できる「看護休暇」もその後ろ盾となっています。

このように、その制度によって数多く支えられている事にも感謝しています。と同時に、それだけでなく、一緒に働いている現場のスタッフの皆さんの理解や協力、助けなくしては、と同じく感謝しています。

私がここまでこれたのも、あたたかい環境があつたのだと思つています。まだ子供も小さく、働くにあたって迷惑をかけることも多々あるとは思いますが、これからも日々、仕事に精進していきたいと思ひます。

平成二十四年度 行事風景



12/28 もちつき会
『ヨイショ!』



12/19 クリスマス会
園児さんたちによる
ダンスを披露



9/18 敬老会
国本中学校吹奏楽部
による演奏



7/4 七夕会
野沢保育園児による
歌やお遊戯の披露



3/2 ひなまつり会 秋輝太鼓の
皆様による太鼓の演奏を披露



2/2,3 節分豆まき
『鬼は外、福和うち』



8/20 納涼祭 屋台では、フランクフルト、チョコバナナ、
わたあめ、かき氷、生ビール、ヨーヨーすくい、金魚すくいを出品。



10/13 運動会
玉入れ風景

平成二十五年度 年間行事予定

毎月行事

誕生会

二・三階（第二水曜）

隔週

書道・手芸クラブ

二階（木）三階（金）

四月 お花見・外出
ドライブ

五月 菖蒲湯
七夕会

六月 納涼祭

七月 敬老会

八月 運動会

九月 柚子湯

十月 クリスマス会

十一月 もちつき会

十二月 節分

三月 ひな祭り

三月 節分

特別養護老人ホーム敬祥苑



施設長
赤羽 基行

福祉や介護に「地域」というキーワードが添うようになって相当な時間が経過したように感じますし、現在の包括的ケアの源流は、小さな規模であっても先駆的な町や村では、二十五年よりも以前から取り組んでいたような記憶があります。また、敬祥苑も元号が「昭和」の頃から、通所型サービス（宇都宮市から受託）を始め、まだ在宅介護支援センターが制度整備されていなかった時期にも、疾病の後遺症から重い障害に至った方や認知症の方、そして御家族様からの福祉や介護の相談を受けて、職員一丸となって当時として精一杯の対応をしてきたつもりであります。

近年の、地域での包括ケアの体制整備のアナウンスに至っては何が大きく変わったのか。もちろん要介護状態になる高齢者人口の飛躍的な増加や、医療や福祉・介護の制度が拡大しながらも限られた財源での効率的連携強化が叫ばれるようになって

たことからと思います。特に大都市圏は、昭和二十年代前半生まれの方の地方からの流入定住が多く、その上に要介護状態出現率が高くなる平成三十七年以降は、介護等のサービス量も足りるとは言えない予測もされているため、より一層の制度活性が喚起されているものからといえます。

「暮らし」に寄り添う支援をすることは、その地域の特性を反映し、医療や介護・福祉資源を偏ることなく活用できる仕組みが構築されていることと考えます。私たち沼尾グループの経営理念でもある「地域にのつてのオンリーワン」は、徒に時勢に流されることがなく、身近な皆様に常に耳を傾けることを忘れない誓いでもあります。



看護主任
五味 尚子

桜前線も北上し、風薫る新緑の候となりました。この四月、看護主任の任命を受け、身の引き締まる思いであります。病棟勤務、訪問看護を経て、入職して六年目。様々な指

導を頂き嬉しく思っております。

高齢化が進み、やむない事情にて家庭生活が困難な方、また、孤独なお年寄りも増えております。「ここに来て良かった」と思っていただけ、奮起していかねければならないと思っております。その為にも、一、協力病院である沼尾病院、ぬまお内科の医師、関係者との連携を密にとり、処置及び緊急時の対応に努める。

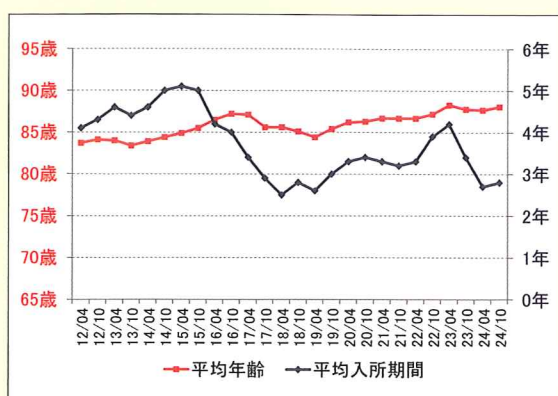
二、各スタッフ間との連絡、報告、情報の提供・共有に努める。
三、看介護における協働の構築に努める。

人は、生活してきた家庭、社会環境により、各々違ったニーズを持っています。このニーズに応えていくよう、ご本人はもとよりご家族におきまして、できるだけ満足して頂けるよう、心掛けたいと思っております。「オムソーリ」の精神のもと、敬祥苑の一員として、地域の福祉に微力ではありますが携わる事ができ、何よりだと思っております。

「おじいちゃん、おばあちゃん子だった私が看護師になり35年。辿り着いた場所が老人ホーム敬祥苑だったんだなあ」と今更ながらに感じております。「明るく、風通しの良い医務室を！」「をモットーに周囲の訴えに耳を傾け、前向きに進みたいと思っております。今後ともご指導くださいますよう、よろしくお願いいたします。

入所ご利用いただいている皆様のご様子も、介護保険制度施行初期と比べての変化を実感する点があります。要介護度の平均は、介護保険制度が施行された平成12年以来、敬祥苑では4・0～4・2の間を推移しておりますが、近年は数値以上に心身のご様子は重度化している実感があります。

また、入所されている皆様の年齢は、制度初期の頃は83・7歳が、平成24年度平均は87・9歳と、12年間で4歳以上ご長寿の傾向にあります。高齢になられてからの生活環境の大きな変化に、入所された皆様のご負担も小さなものではないと推察されますので、日々安静にお暮らしいただけるよう、環境や接遇に一層の配慮をもって、皆様への介護・支援に当たらせていただきます。



認知症対応型共同生活介護

グループホームカトレア

十年目になりました



管理者
阿久津 哲

グループホームカトレアは、平成十六年四月に開設して以来、今年で十年目を迎えます。開設がつい先日のような気持である事は今も変わらず、あつという間の日々でした。これまで無事に運営できたことは、宝生会・洋精会関係、御利用者様及び地域の皆様の温かいご理解と御協力の賜物と厚く御礼申し上げます。

初めての来訪者に対して、少し離れた近隣の方が、当施設の場所を御説明くださる話を聞かされ、徐々に地域に根ざしてきた事を実感しうれしく思います。

認知高齢者グループホームを取り巻く環境はこの間に大きく変化してまいりました。グループホームの急

速な普及は、御利用者様の平均要介護度を押し上げ、重度化の進展は本来描かれていたグループホーム像から乖離してきた面は否めません。

東日本大震災も経験しました。幸い当施設・御利用者様の被害は皆無でしたが、余震への恐怖や、計画停電・ガソリン不足の問題など、当時を思い起こしても今後の防災への課題の大きさに身震いする思いです。

又この九年の間に、他県のグループホームに於いて三件もの火災死亡事故が発生し、同じ事業に携わる者として人事とは思えませんでした。カトレアはスプリングラーが設置され基準を満たした施設ではあります。二四時間体制の小規模施設の脆弱性を常に認識を新たにしていくなどの大切さを痛感いたします。

今後は、社会から求められる認知症介護のニーズに鑑みた、多様な状態像を持たれる御利用者様への対応・介護力をいかに確保し、維持向

上していくかが最も重要な課題と考えます。更には、施設の立地地域との連携の強化を進め、真に地域に密着した施設となるよう努めてまいりたいと思います。



副主任となつて思う事

介護副主任 中山 佳織

社会の高齢化に伴って、カトレアでも利用者様の重度化が見受けられます。ですが、グループホームならではのアットホームでゆったりとした雰囲気の中で個別ケアを行い、いつまでもその方らしく生活して頂くお手伝いを、これからも続けていきたいと思っています。

そのためには、カトレア職員一人一人が方向性を同じにし、一人で頑

張るのではなく全員で考え、アイデアを出し合いより良い介護の在り方を日々模索していくことが必要です。

カトレアで過ごして幸せだったとおもって頂けるように毎日仕事に励みたいと思います。

暮らしのひとこま

介護職員 山本 貴子

御利用者様達が御自分達で御菓子を作りました。今回のメニューはホットケーキ。皆様の目がとても輝いていて素敵です。

お味のほうも格別だった様です。次回のメニューも検討中。今から楽しみです。



医療法人社団 洋精会



平成23年4月開設

所在地 宇都宮市星が丘1-7-10
TEL: 028-678-9901
FAX: 028-678-9933

小規模多機能型居宅介護
よしのいえ



沼尾病院

昭和13年7月開設 所在地 宇都宮市星が丘1-7-38
TEL: 028-622-2222
FAX: 028-624-2228



平成8年11月開設

所在地 宇都宮市宝木本町2141-5
TEL: 028-665-6511
FAX: 028-665-6311

ぬまお内科

外来診療
内科・外科・循環器内科・胃腸内科
皮膚科・肛門内科・整形外科
入院施設 医療・介護療養病床
通所リハビリテーション
訪問看護ステーション星が丘
療養通所介護センターほし
ケア工房野の花（居宅介護支援事業）
ヘルパーステーションぬまお（訪問介護）
地域包括支援センターきよすみ

社会福祉法人 宝生会



平成16年4月開設

認知症対応型共同生活介護

所在地 宇都宮市星が丘1-1-28
TEL: 028-650-7345
FAX: 028-621-0222

グループホームカトレア

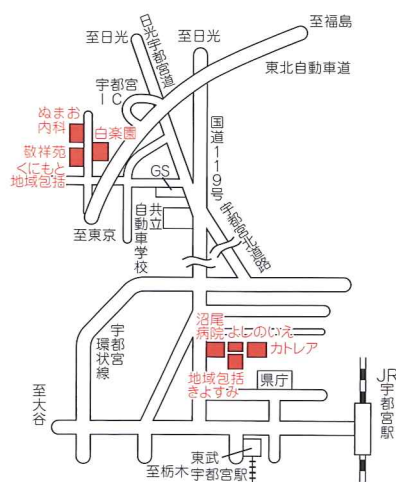
介護老人福祉施設
短期入所生活介護
訪問介護
通所介護
居宅介護支援事業
生活管理型短期宿泊事業
生活支援型ホームヘルプ
生きがい対応型
デイサービス
配食サービス
地域包括支援センター



昭和62年4月開設

所在地 宇都宮市宝木本町2141
TEL: 028-665-5633
FAX: 028-665-5635

特別養護老人ホーム敬祥苑



介護老人保健施設
短期入所療養介護
通所リハビリ
テーション
居宅介護支援事業
訪問リハビリ
テーション



平成4年4月開設

所在地 宇都宮市宝木本町2140-2
TEL: 028-665-7171
FAX: 028-665-7177

老人保健施設白楽園

洋精会・宝生会施設及び事業について